

| 項目        | 基準値               | 異常値で考えられる病気   | 健康でも異常値になる場合   |
|-----------|-------------------|---|--|
| 尿糖        | 陰性(-)             | 糖尿病など、血糖が過剰な場合、吸収しきれず尿で検出されます。  | 妊娠など   |
| 尿ビリルビン    | 陰性(-)             | 肝炎、肝硬変などの肝疾患、胆石症など  |  |
| 尿ケトン体     | 陰性(-)             | 激しい下痢、嘔吐など消化吸収のトラブルや重症糖尿病で陽性になります。また発熱の際にも異常値が出ます。  | 妊娠、ストレス、過剰なダイエットなど   |
| 尿比重       | 比重1.010<br>~1.025 | 糖尿病やネフローゼ症候群の場合は、より高い数値を示す場合があります。1.010以下の場合には濃縮能力が低下しており、水分が多く排出される腎不全利尿期・尿崩症などが考えられます。  | 水分を大量にとった後や、利尿剤を服用している時は低い数値が、下痢や嘔吐、脱水症を起こしている時には高い数値が出やすくなります。  |
| 尿のpH      | pH6前後<br>(弱酸性)    | 尿が酸性(pH4.5以下)やアルカリ性(pH8以上)のどちらに偏っていてもよくありません。しかし食べたものの影響で、一時的な異常が出やすいものです。 <b>継続的</b> にアルカリ性である場合は膀胱炎などの尿路感染症が、酸性の場合は糖尿病や痛風などが考えられます。発熱や下痢をしている時も尿は酸性になります。 | 野菜不足で酸性になります。  |
| 尿たんぱく     | 陰性(-)             | 腎臓病や膀胱炎、尿道炎など尿路の疾患の可能性があります。 <b>(持続的な蛋白尿)</b> 発熱時も陽性になることがあります。   | 激しい運動、ストレスなど健康な人でも陽性になることがあります。 <b>(一過性の蛋白尿)</b> 。また、子供~20代ぐらいまでは腎臓の位置の関係で健康でもたんぱく尿が出やすい場合があります(体位性たんぱく尿)。 |
| 尿ウロビリノーゲン | (±)               | (+)陽性:肝炎、肝硬変、肝癌など<br>(-)陰性:胆石などによる総胆管閉塞   | 飲酒が続いたり、肉食のあとは異常値が出ることがあります。また激しい運動の直後や疲労時、便秘時も異常値が出やすいです。   |
| 尿潜血反応     | 陰性(-)             | 肉眼で確認できなくても見えなくても尿に血がまじっていることがあります。腎臓、尿路、尿道系、膀胱の疾患(結石、炎症、腫瘍)などが考えられます。  | 女性では生理の前後なら(+)と出ることもありますし、 <b>一時的な</b> 潜血は起こりやすいです。一部の鎮痛剤や抗生剤などでも陽性反応がみられることがあります。(偽陽性)                    |
| 尿白血球      | 陰性(-)             | 尿の中に白血球が多いと腎臓や尿路に炎症の可能性があります。   |  |